

知多の哲学散歩道 Vol.32

「融通念仏宗の宗祖 良忍上人の思想②」

久田健吉 (哲学研究者)

(前号のつづき)

一人はみんなのために、みんなは一人のために、一人の行はみんなのために、みんなの行はひとりのために。この思いで道を行し願えば、みんなで(他力とともに)阿彌如来の本願を信じ往生を願う道となるがゆえに、十界が一念において億万遍離塵空をすれば、功德は円満と成り成就するに違ひなからう。しかし、これがどうして菩薩道を刻み込んだ最初の宗派仏教と言えるのでしょうか。

言えるのです。阿弥陀如来の夢告に込んでいるからです。

しかしこの融通念仏文には、「菩薩」という語が出て来ないではないかと言われるかもしれません。しかし良忍上人は、阿弥陀如来の夢告にしたがい、大乘善根の思に則って融通念仏宗を起こされたのです。みんなで力を合わせ、助け合って阿弥

如來の本願を実現して行こうと言うのですから、菩薩の行動は含まれて来るのは然です。

付言すれば、釈迦は「覺者の道はこれなり」と言って、慈悲の心を持つ人を覺者としています。覺者とは悟りを開いた人という意味ですので、菩薩のことです。菩の心はどこから生まれるかと言えば、他者の幸せを願う心の中では生まれるのです。愚上人はこの菩薩の心の育みを願って、融通念仏宗を起されたのですから、仏に菩薩道を刻み込んだと言っていきたいと思います。

みんなで幸せになろう。菩薩の心で。こういうことですので、融通念仏宗が日本全
を覆ったこともありました。一遍上人や導御上人が活躍した頃です。鎌倉時代の
・末期の頃です。

しかしこの融通念仏宗が、後発の浄土宗や浄土真宗、曹洞宗によって侵食される
うになります。理由は、人間の煩惱を見つめる思想が、後発の浄土宗や浄土真宗、
臨済の方が融通念仏宗よりよるかに深いことにあります。

端的に言って、融通念仏宗は煩惱について何も言及していません。つまり問題に
てもいないのです。

同阿陀那仏の心縁しての仏国土を人間の如くして、浄土宗や浄土真宗が、阿陀那仏が法蔵菩薩であつた時、人間を苦しみから解放できなかつたら如来にはならぬといふ誓いを立て、それが可能となつたら阿陀那仏になられたといふ語に依つて信じるのと、単に仏教の本を頼るだけの阿陀那仏如来だから、これをいふと言つたのでは、人間の哲學上の差が生れるのは当然である。更に浄土真宗親鸞聖人は、菩薩になつたと決意するもどうしてもない自分の煩惱の深さを、阿陀那様には帰属する(するが)以外に道はないといふと教へを求めますが、こ差です。

曹洞宗の禅念仏も人間的で哲学的です。禅念仏に含まれる懺悔文は言います。悩に対する深い洞察が見られます。煩惱の具体的現われは「貪瞋痴」ですが、どんなに戒めても身口意のすべてから出て来ると言います。だから私は仏法僧に帰依のしかないとして救いを求めるという形になっています。

この差において融通念仏宗はいつしか、浄土宗、浄土真宗、曹洞宗に姿を変えてくことになります。そして菩薩道も姿を変えていくことになります。

煩惱を克服できない己を知って仏に皈依するという思考は極めて人間的ですが、の己に拘った思考であるゆえに、みんなのことは問題にならず、自分だけを問題する思考に陥ることになります。ある意味でジコチュウに。これが変更の理由です。では煩惱をどう考えるのが正しいのでしょうか。

(次号につづく)



